

正願寺通信

●正願寺報恩講(案内)

この『正願寺通信』は、ご縁のあるごなたにもお配りします。ご希望の方は、ご連絡ください。



発行者:真宗大谷派 正願寺 住職 三保谷 順
〒442-0862 豊川市市田町北之坪1-1
Tel 0533-86-3659 FAX 86-3668
Mail mipomail@cream.plala.or.jp

疑謗為縁

疑謗を縁と為す

答えを持ったら、
そこで終わり。
問いを持ったら、
そこが始まり。

今回の言葉は、ご本山が出している法語集の一言です。以前からこの言葉は知っていましたが、あらためて出遇い、「なるほど」と思いました。この言葉は、親鸞という人が求め歩み続けた道を表現しているように思います。その人は比叡山天台宗に20年間身を置き、ひたすら勉学と修行を続けたと言われます。しかし悟りに至ることはありません

んでした。その挫折が法然上人との出遇いを実現させます。その出遇いの内容を、「ただ念仏して、弥陀にたすけられまいらすべしと、よきひと(法然上人)のおおせをかぶりて」と、歎異抄は伝えます。親鸞聖人29歳の時の事でした。その一言は、親鸞聖人にとって20年間求め続けてきた答えでありました。しかしその答えは、実は真に問うべき道を指示した「問い」でありました。「このことを生涯をかけて問い続けよう」そのように人生が決まったのが、法然上人との出会いだったのです。また、大正10年に親鸞聖人の奥さんであった恵信尼の真筆消息(手紙)が見つかりま

す。そこには親鸞聖人の御生涯を伝える貴重な事が書かれていました。その一文に、親鸞聖人が法然上人の教えを「ただ一すぢに仰せられ候ひしを、うけたまはりさだめて候ひし」とあります。親鸞という人が求めたものは、人生の全てをかけて問いつけることのできる、ただ一筋の道だったのでしよう。1月の「つどい」は、正願寺報恩講のためお休みです。新年1月は、正願寺の報恩講のため、お休みとなります。御命日のつどいは、どなたでも気軽に御参りできる「つどい」です。1月と10月はお休みです。開催の時は、お数珠(トファイル)だけお持ちいただければ大丈夫。本堂に入る時アルコールで手を消毒し、マスクの着用もお願いします。日時は毎回28日午前10時30分から11時40分までです。

真宗入門

御命日のつどい案内

行事のご案内

新年1月の行事

本堂仏具のおみがき

報恩講のための本堂御仏具のおみがきをします。今回は、報恩講の時だけ使用する御仏具もあります。是非お手伝いください。

◇日時 1月13日(土)

午前9時から

1時間ほど

その後、お茶とお菓子の雑談会があります。色々な方とお話ができます。

正願寺報恩講厳修

正願寺報恩講をお勤めいただきます。

報恩講とは、一年に一度お勤めする親鸞聖人のご苦勞を知り、ご恩に感謝する御命日法要で、浄土真宗のお寺での一年の行事の中で最も重要な法要です。

報恩講の由来ですが、永仁二(1294)年、親鸞聖人のひ孫である本願寺第二代の覚如上人が二十五歳の時、親鸞聖人の三十三回忌をお勤めされた。それ以来、本願寺では毎年勤められるようになりました。これが報恩講の始まりです。この時代の浄土真宗は、また小さな宗派でした。第八代蓮如上人の活動によって、多くの門徒衆が各地に誕生します。そして、それらの人たちが、報恩講を勤めるようになりなりました。やがてその集まりの中心に道場ができ、それが寺院となりました。報恩講は、そこに集うご門徒が主体となり、自分たちの報恩講として勤めてきたのです。今もそうです。その原点にあるものは、「親鸞さんにお会いしたかった」という思いです。その様な事から、報恩講の時には、覚如上人が作られた『本願寺聖人伝絵』の語りの部分(『御伝鈔』といえます)を



拝読し、絵の部分(『御絵伝』といいますが)を本堂左側にか



さて左下の写真は、『安城の御影』と呼ばれるもので、今まで『正願寺通信』で紹介してきました『能皮の御影』・『鏡の御影』と並ぶ親鸞聖人の代表的な御影です。聖人の前に置かれているものは、手をおぶる火鉢の箱、猫皮の草履、桑の鹿杖です。小さな座布団のように見えるのは、タヌキの毛皮の敷物です。それらは当然ある意図をもって描かれています。寒さに耐え、動物の命を取ることと生活を支えた人々と共に生きた人ということでしょう。京都か

ら遠く離れた地であり、宗教から見放されていたそのような人々と一緒に生きた人ということでしょう。「親鸞さんにお会いしたかった」という思いで生きた人たちが、今のこの私のところまで、報恩講を伝えてきました。

さて、正願寺の報恩講のご案内です。下記の日程で勤めます。1日目の午前の法要は、お勤めの後、住職より蓮如上人が書き残されました『御俗姓』という御文を解説します。親鸞聖人のご生涯が短くまとめられています。ご生涯全般のお話をします。正午から御齋です。午後1

時で御齋を終了します。御齋とは、ご法要の時の食事を指します。『仏事』としていた



午後1時30分から御逮夜法要です。ご講師をお招きしての御法話がございします。

2日目の午前は、『御伝抄』の拝読のお勤めをいたします。『御伝抄』とは、親鸞聖人のひ孫の覚如上人がお作りになっ



た親鸞聖人の一代記です。その絵の部分だけが掛け軸となり、報恩講の時だけ本堂の左側に掛けられます。そのお亡くなりになられる場面を中心に住職よりお話しさせていただきます。

正午から午後1時までの御齋の後、午後1時30分から御満座法要です。ご講師をお招きしての御法話がございします。

正願寺にご縁のある方は、必ずお参りいただけますよう御案内申し上げます。

会館を入ったところに受付があります。そこで「お志」をお納めください。墓地管理冥加金も収めることができます。

- 1月19日(金)
 - 午前11時 『語俗姓』法要 法話 自坊住職
 - 正午から お齋(お食事)
 - 午後1時30分 御逮夜法要 法話 柳野明仁師
- 1月20日(土)
 - 午前11時 『御伝抄』法要 法話 自坊住職
 - 正午から お齋(お食事)
 - 午後1時30分 御満座法要 法話 桜部 明師



共同情報提供の方まで。ご門徒希望寺正願寺有載

『門徒広場』という欄を用意しています。何かご門徒みんなに紹介したいことがあれば、お気軽に情報提供ください。内容によっては、掲載できません。

あとがき

年内中にこの『正願寺通信』を配りたいと思いましたが、やっぱり年を越してしまいました。一年のスタートからこんなことではと思っていたら、能登の地震。その人たちはどんな思いで...

今年は、日の並びでほんの少し長い冬休みを楽しむ娘。ですが、休み明けより三日間は授業と試験とか。土曜日も学習会や試験も有ったり、何だか忙しい月になりそう。だからこそ友達とSNSでやり取りするより、互いに塾や部活や家庭の都合をやりくりし、二時間合ってゆっくり話すのが楽しみの様。顔を見て話す、いいね!

